

全国学力テストが 中学校英語の授業を変える!?

全国学力テストに英語が導入

文部科学省が中学3年生を対象に実施している「全国学力・学習状況調査」。このテストに、2019年度から新たに英語のテストが加わりました。これは英語の5つの領域「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」を測る、初の中学生向けの大規模な学力テストです。特に「話すこと」については、タブレット端末などを利用した音声録音方式で行われるなど、その出題形式も含めて大変注目されました。

これからの英語教育で重視される力

全国学力テストは、学習指導要領において特に重視される点を具体的に示す、いわば文部科学省からのメッセージとも言えます。「聞く」「読む」こと中心の学習ではなく、「書く」「話す」ことも加えた、総合的な力の育成が、一層求められているということになります。新学習指導要領でも、5つの領域を総合的に育成することが求められており、特に発信力の強化が重視されています。

また全国学力テストでは、ただ知識を問う問題だけでなく、目的や場面に応じてその場で伝えたい内容を考え、英語で表現する問題が設定されました。これは新学習指導要領で求められている、もっている知識や技能を総合的・統合的に活用し、コミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて表現したり、伝え合った

りすることができる力の育成につながるものです。これは今後の高校入試の問題がどう変わっていくかについての羅針盤とも言えそうです。

テスト結果から見えた課題と今後

2019年度全国学力テストの平均正答率を技能別に見ると、「聞く」68.3%、「読む」56.2%、「書く」46.4%に対し、「話す」は30.8%にとどまりました。特に即興での会話や自分の考えを伝える問題の正答率が低く、発信力に課題があることがわかります。

今までの授業が「聞く」「読む」ことに比重が置かれていたのであれば、これからは5領域の力を総合的に育成する授業を意識して行く必要があります。

2019年度全国学力テストの
技能別平均正答率

聞く	68.3%
読む	56.2%
書く	46.4%
話す	30.8%

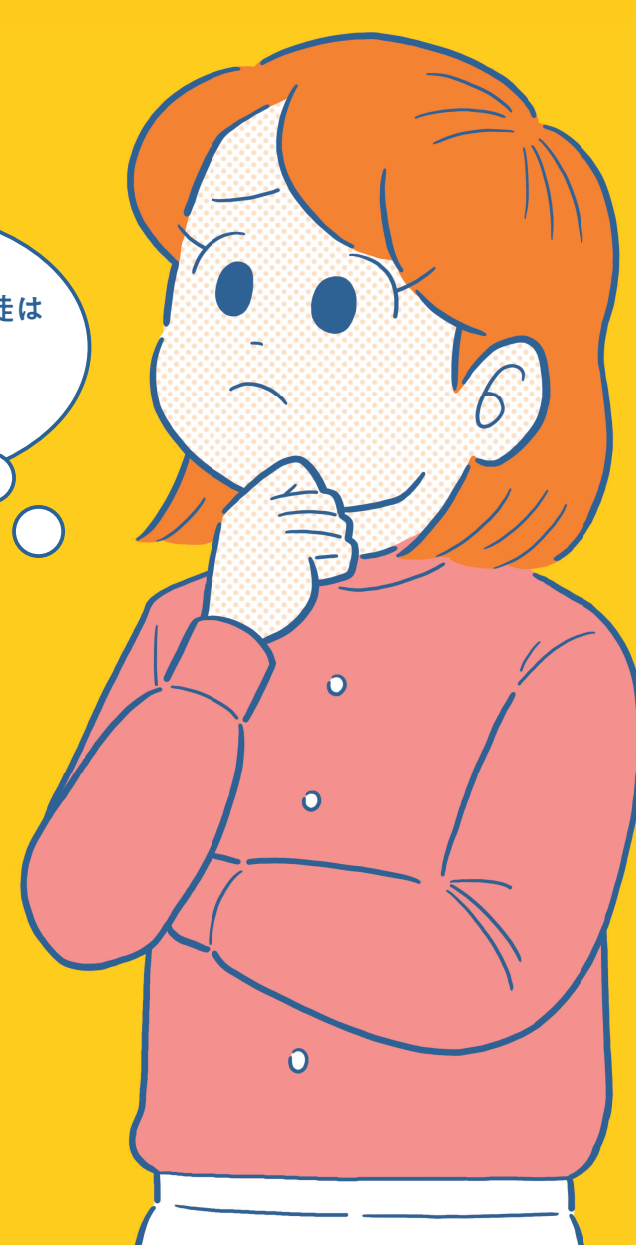
※「話す」は不参加校もあるため参考値として集計

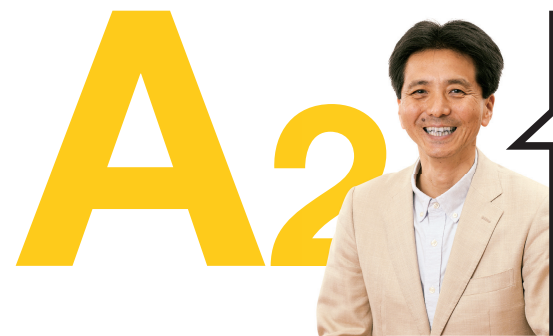
Q2

新学習指導要領で
求められている「即興力」は、
どうすれば身につけられますか？

うちの中学校の生徒は
1分間も対話が
続かないけど…

「即興で伝え合う力」を
育成するにはどんな
指導をすればいいの？





トピックを工夫しながら 日々の授業で継続的に 練習することが大切です。

おお た ひろし
東京家政大学教授 太田 洋先生

即興力を育成するために大切なポイント

即興でのスピーキングが難しいのは、話す内容を考えて、どのような言葉(語句、文法)で伝えるかを決め、音声化し、それを自分の耳で聞く(モニターする)という過程を瞬時に
行う必要があるためです。やり取りでは相手がいるので、さらに難しくなります。即興力を育成するためには、スピーキングのメカニズムの3つの要素である①内容、②言語、③発音 を考えることがポイントになります。

まず①の内容で大切なことは、生徒に自分の話したい「ネタ」を持たせることです。好きなものや趣味など、身近で話しやすい話題について考えさせましょう。**Here We Go!**では、生徒たちの身近な話題を豊富に扱っているので、登場人物のやり取りを参考にして話す内容を考えてもいいでしょう。自分の話したいことが多ければ多いほど、気軽にやり取りができるようになります。

②の言語面では、やり取りに役立つ表現や使いたい表現を教科書から抜き出させることをおすすめします。教科書の表現を、「自分ならこう言う」と考える習慣をつけさせると、使える言葉が広がります。教科書の表現を使うよ

うにする練習として、「リテリング」の活動が効果的です。また、やり取りをした後には「〇〇さんが使ったあの表現は使える」などと振り返ることが大切です。また、振り返りの後には相手を変えて、「次はこれを使いたい」と思った言葉を使う機会を与えるようにしましょう。

指導のポイント

最後に③の発音は、相手に伝えるために発音すること意識させましょう。相手のことを考え、スピードや強弱などに気をつけることが大切です。教科書には文脈のあるやり取りが豊富にあるので、音読をする際には、「この場面ならどのような言い方になるかな」と考えさせるといいでしょう。

即興のやり取りは特別なものではありません。日常的に行い、慣れていくことが大切です。まずは授業の最初の5～10分を使って、先生が自分のことを生徒に話してください。その後、生徒たちがペアでやり取りをします。こうした練習を**帯活動**として毎時間続けると、最初は1文だけしか話せなかった生徒も、2文目、3文目と足せるようになります。

キーワードは…

「身近な話題」「帯活動」「リテリング」

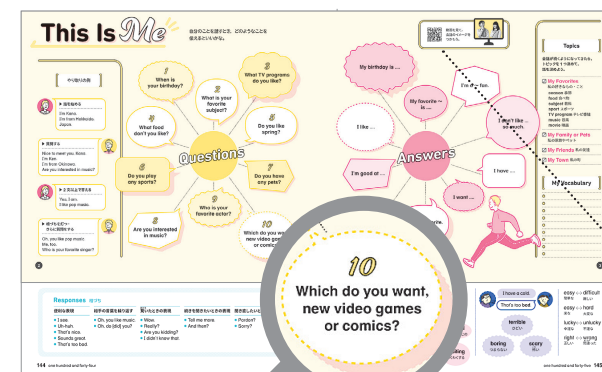
Here We Go!にお任せください

Here We Go! は…

「即興力」を高める帯教材を豊富に用意しました。

Let's Talk!【対話を続ける】

- 学校生活や家庭生活などの日常的な話題について即興でやり取りを行うコーナーです。
- 生徒が話しやすいトピックや、答える時の手がかりが載っているので、生徒自身で会話を進められます。
- ページ下部には相づちや気持ちを伝える言葉のリストが用意されているので、会話を続ける助けになります。



1年 とじ込み帯教材 Let's Talk!

どうやって使うと効果的?

最初から会話が續かないのは当然です。毎回の授業で練習をすることで、少しずつ話が続けられるようになります。トピックを変えながらくり返し活用することで、即興でやり取りする力が育ちます。



QRコードから、実際に中学生がやり取りをしている映像が視聴できるので、やり取りを続けるイメージをもつことができます。

ココが
使える!

Story Retelling【自分の言葉で話す】

- ピクチャーカードを使って、教科書本文の内容を自分の言葉で伝える活動を行うコーナーです。
- ピクチャーカードやワークシートを準備する必要がないので、授業内で気軽にリテリング活動を取り入れられます。

1年 帯教材 p.143 Story Retelling



リテリングには どんな効果があるの?

新しい文法や表現を学ぶと、前に学習した文法や表現を忘れてしまいがちです。大切なのは既習表現を何度もくり返し使うことです。が、なかなかタイミングがありません。リテリングは、教科書で学習した表現を自分の言葉として考えてくり返し話すことで、学んだ文法や表現を定着させる効果があります。

1 Unitの本文はストーリーでつながっているの、生徒が内容を無理なく思い出せます。

2 初めは1文しか話せなくても、ペアやグループで活動を行うことで、友達が使った言葉や表現を取り入れて話せるようになります。

ココが
使える!